要紹

外部の指導者を活用した弓道学習の実践

高原町は宮崎県の

南西部、

国立公園霧島山を境に鹿児島県と

道授業実践

概

要紹介

原

立

後

内

学校

お

け

舞」として国重要無形民俗文化財にも指定されてい。島山の信仰に基づく二つの神楽があり、総称して 接する静かな山あい 「神武天皇ご生誕の地」という伝承を持ってい このような文化のある高原町の教育においては、 高原町の西端には に位置しています。 「高千穂峰」を有し ており、「天孫降臨」 ます。 ます。 たく 高原 また、 まし 0 神が霧

に誇りを持ち、 の育成に努めています。 からだ 豊かな心 未来を切り拓く すぐれた知性」を基本理念に掲げ、 心身ともに調和のとれた人材 郷土

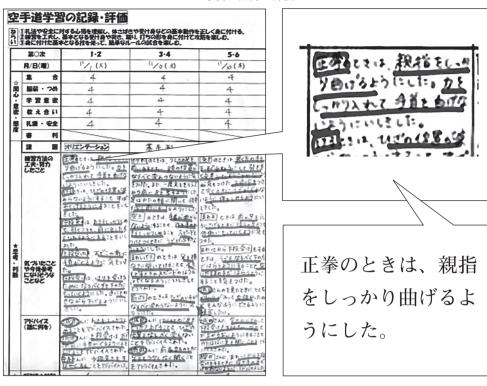
(1



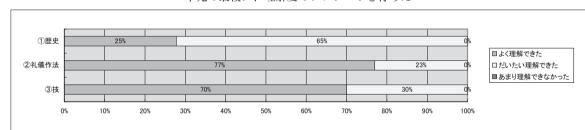
国立公園霧島山

高原町教育委員会たかはるちょう

【自己評価カード】 学習の記録・評価



【授業後のアンケート】 単元の最後に、理解度のアンケートを行った



最初は、「痛い、殴る、恐い」のイメージが多かったが、授業を終えての感想はみんなが楽しかったと答え た。理由においては、「みんなで協力して取り組むことができた。班の人たちと息を合わせて一つのことに挑 戦できた。できなかった技がどんどんできるようになった。達成感を感じ、もっと上手になってメリハリを つけたいと必死に打ち込めた。」が多く見られた。

【学校の取組の方向性】 町費での予算化で事業の継続をする

この事業は生徒の興味関心を引き、武道の基礎となるものである。来年度もより多く地域の指導者の活用 の時間が確保できるように町費での予算化もお願いしている。知識・技能、関心意欲の向上に成果の上がっ た分野でもあり、今後も授業内容の質・量ともに充実させていきたいと考えている。

139 月刊「武道 | 2019. 4 2019. 4 月刊「武道| 138 射る時の形を見ることができるた

注意を怠りませんでした。

道具を使って矢番え

しっかり確認でき、各個人が矢を

慎重に行いました。素引きで

射法八節を振り返りなが

射法八節のそれぞれの動作が

の弦に矢をあてがう動作)を行い

以前に学習した安全確保

を使わずに弓を引く)を行いまし

た。前回までに学習した基本の姿

を確保して、学習しました。

とおして、

矢を射る)を多く見る

次に、

道具を使って素引き(矢

念に説明を行い、

しっかりと時間

を射る動作の基本となるため、

業するよりも、他の生徒の行射(こ

ました。これにより、

1学年で授

ため、2学年同時に授業を実施し

1年次に基礎内容を学習している

2年生及び3年生については、

2・3年次の実践内容

れまで学習してきた一連の内容を

内の高原中学校の分校から独立 後川内中学校は昭和25年に同町ラヒラカッルウウタ 現在は生徒数15名の小規模な

学校です

平成25年に全日本弓道連盟から

弓

道具を使わずに座り方の練習

道を武道の授業として実施してい 弓具一式を寄贈していただき、

中学校の施設に弓道場がな



3年次に10時間を用いて技術の向 での具体的な指導内容を記しま の学習を行い、2年次に10時間、 上を行っています。 1年次に10時間を用いて基礎 、内中学校の弓道の授業で

以降は各学年

1年次の実践内容

のかを理解するための説明を行い 弓道がどのような武道 な

いため、 教員の指導技術を高めることも目 依頼することで、 だきました。学校外の方に指導を 者は町内在住で県弓道連盟に所属 寄贈を受ける際にも尽力していた されている方にお願いしており、 置し、授業を行っています。 できる体育館に畳を立てて的を設 天候に左右されずに実施 弓道経験のな

2

する、②精神を養う、 明のほか、DVDを用いて学習が し、弓道の歴史や特性を説明しま を豊かにする、ということを説明 弓道の目的である、 器を設置しました。最初に、 行えるように、 ました。授業では指導者による説 した。また、授業を実施する上で 体育館にDV ①体を強健に 充分に注意 ③生活内容 現代 · D 機

する礼)、立礼(立ってする礼)、 うに道具を使わずに座礼(座って 学習をしました。その後、 ち方や座り方など道具を使わずに 勢など、基本の姿勢を学習し、 たときの姿勢や、座ったときの姿 ついての学習を行いました。立っ わるということを説明し、礼儀に の歩き方を学習しました。 次に、 (浅い礼)を学習し、 弓道は礼に始まり すり足で 同じよ 礼に終 立

喚起を行いました。 の安全確保について、

1年次の学習内容の確認





ことができました。 した後、 ことができるようになり、 た授業時間をしっかりと確保する とを確認して、次の自分の行射を 負担を減らすことができ、 すくなりました。また、指導者の 他の生徒が指導されているこ といったサイクルがとりや 休憩をしながら見学を 行射を 限られ

認しました。1年次に学習して以 弓道がどのような武道なのかを確 しっかりと基礎内容から学習しな まず、2・3年次の授業では、 1年の間が開いているので、

基本となる射法八節を学習しまし

前記のとおり射法八節は、

ました。その後、

矢を射る動作の

分かりやすい表現を用いて学習し

握り方を学習しました。

手の内と表現しますが、

なるべく 弓道では 扱い方を学習していきました。 それぞれの部分の名前を学習し、

作を学習して、

1年次の学習を終

て手順を追って説明し、

離

れの動

次に、実際に矢を射る時の弓の

て、学習しました。道具の名前や、

た。その後、正しい取懸けについた。その後、正しい取懸けについ

次に、弓道で用いる道具につい

に注意しながら、

動作を行いまし

射法八節に則りながらの行射

て充分に注意喚起を行い る上での安全確保について、 ないように努めました。 おしました。また、授業を実施す 事故の 改め

解を深めていきました。 容を復習するとともに、さらに理 確認を行う時は、1年次の学習内 矢番えを確認しました。 で、射法八節の取懸け、 次に、1年次に学習 手の内、 した内容 これらの

弓を引きました。 学習し、射法八節に則りながら、 上がって矢を射る)による行射を まま、矢番えをし、 では、座射(射場で座った状態の れに挑戦しました。その後の授業 習した矢番えをして、横一文字離 次に、 1年次及び前回までに学 その後、

等も考慮しました。 ない本数の矢を持ち、 た、行射中の見学場所にも充分注 離を、通常の半分以下で行うなど して安全確保に努めました。 なお、行射を行う時は、 矢が跳ね返ってくる可能性 的からの距 無理の

これらの授業中に、

指導者が指

141

月刊「武道 | 2019. 4 2019. 4 月刊「武道|

(3) 授業のまとめ

道の面白さを改めて実感すること たが、矢の飛ぶ距離が少しずつ長 が違い、 くなっていくにつれ、 射を行いました。これまでと勝手 道場を借用して、 を制限して弓道を行っておりまし て、これまで体育館の中で、 ができました。 たが、町内にある他の中学校の弓 2・3年次の授業のまとめとし 慣れない場ではありまし 3年生にとっては 通常の距離で行 達成感や弓 距離



弓道場を借用しての授業のまとめ

学習計画や場の設定が必要に

(2)

題

今後の弓道の授業に向けて、

生

ることができました。

な、 徒の意欲を更に高められるよう なってきます。

指導について、

現在の指

になってきます。

の負担を軽減していくことが必要 などを更に有効活用して、指導者 るほか、DVD学習やICT機器

また、

ださった全日本弓道連盟や、 ほどが経過しており、できるよう 者に感謝いたします。 きることは、本当に恵まれてお ました。広大な自然の中、落ち着 になったことも少しずつ増えてき いた雰囲気で弓道の授業を実施で 改めて弓具一式を寄贈してく 指導

とで、弓道の楽しさを味わうこと 合せや授業後の反省を繰り返すこ

武道授業実践の概要紹介

成

できました。

射る弓道の楽しさを味わうことが

の指導技術について、理解を深め

れ、基本の技術を身に付け、

的を

うことができており、

教員も弓道

後の反省、工夫改善を継続して行

また、単元計画の打合せや授業

かな指導により、

弓道の特性に触 礼法や射法の細

指導者による、

高原町

向上の場として、とても充実した 年生にとっては来年に向けた意欲

弓道の授業の総まとめとして、

2

終わりに

弓道の授業を開始してから6年

ものとなりました。

3

成果と課題

ができました。 これまでの成果では、 計画の打

> とが大切です。 題も残されており、これらをきち 上や、指導者の負担軽減などの課 んと解決することで、 し、持続可能な授業としてい しかしながら、 生徒の意欲の向 更に充実 くこ

れた知性」を育むことができるよ くましいからだ 豊かな心 徒たちが、弓道の技術の習得だけ でなく、日本の文化を理解し、「た この弓道の授業をとおして、 努力して参ります。 生

2019. 4 月刊「武道」

142

め、教員の指導技術の向上や、 導者に頼りきってしまっているた

少

しでも多くの方に協力を呼びかけ